令和４年１０月２日

菊花展出品を目指したダルマ・福助作りの実践講座（第５回）

今年の菊の開花は、例年通りの開花と予測されますが、皆さんの菊の調子はいかがでしょうか。蕾から花色が見えて花弁がモコっと盛り上がってくると茎の成長は止まりますので、開花に向けて早めに輪台を用意しておきましょう。
さて、最後となる第５回目は、『開花に向けて』、『花直し』についてです。

１　開花に向けて

（１）草丈調整

当菊花会の規定では、ダルマは『鉢底から「天」の花首まで 60 ㎝』、福助は『鉢底から花首まで 40 ㎝』です。

福助の場合、花首が 40 ㎝を超えていたら、６号鉢に植替えてコケシ作り（花首まで 55 ㎝）に変更しましょう。

花首が 40 ㎝を超えているようであれば、ダルマの場合は審査対象外となってしまいます。

（２）くくりひも

審査規定によると、ラフィア（麻ひも）、ビニタイ、ビニール紐でもよく、色も自由ですが、見た目にこだわって、ラフィア（黒染めでも麻色でもよい）をお勧めします。ビニール紐も、黒色であれば日比谷の菊花店でも認められているので良いでしょう。ビニタイは、飾ったときに安っぽく見えてしまい評価を下げる要因になるので、余裕があれば変えたほうがよいと思います。

（３）輪台

福助は草丈が詰まっているので取り付けにくく、輪台の設置は花弁が倒れてきたときでは遅いです。花弁が倒れる前までに設置します。厚物は、盛り上げを高く見せるため小さめな 12 ㎝（４寸）～13.5 ㎝（４寸５分）、管物は花弁直線に見せるため大きめの 15 ㎝（５寸）～16.5 ㎝（５寸５分）を一般的に使うと参考書には書いていますが、最近の名人たちの傾向として、厚物も 16.5 ㎝（５寸５分）を使うようです。

ただし、花弁の外を超えて輪台が見えてしまうものは、見た目にかっこ悪いのでやめましょう。

（４）インバイド

ダルマにおいては、インバイド（3 支柱を固定する針金）が必ず必要になります。無いと審査対象外になってしまいます。インバイドが無いと審査時の鉢移動の際に花と花がぶつかって傷つき、審査員の責任になってしまうので、これを避けるためにすべての菊花会で共通事項となっています。

（５）鉢

福助は、素焼き鉢も審査 OK です。

出品するときは、鉢をきれいに洗っておきましょう。泥や汚れが付いているものは、審査員から熱意が感じられないと思われてしまいます。

（６）病害虫防除

アブラムシ、ハダニが明らかに見えているものは、会場で他の菊に拡散してしまうので、絶対に出品してはいけません。

２　花直し

菊花展に出品しただけで満足をしてはいけません。審査日前に花弁をきれいに直すことが大切です。いびつな花弁を抜き、花弁を整えるだけで、審査順位を２ランクほど簡単に上げることができます。

同じ菊です

花直し前　　花直し後

簡単な直し方

花の中心を決めて上側から順番に花弁の先を中心に向けていく。シミができている花弁は、弁の根元をつかみ左右に小刻みに動かして引き抜くときれいに抜けます。

上の花弁に下の花弁を重ねることによって、花の直径が0.5㎜ほど大きくなります。これを全周重ねてあげれば、１㎝輪径が大きくなることになります。

１花に３０分ほど（全国大会の名人たちは１時間ほど）かけて仕上げていきます。

３　会場への持ち込み方法

菊花会場に盆姿やダルマ鉢を持っていくにはトラックや乗用車が必要ですが、福助や切花はダンボール箱で梱包すれば、電車での持込が可能です。

旅行などに使う『折りたたみ台車』があれば、移動も簡単です。

最近の地下鉄はバリアフリーでエレベータもあるので、台車の移動も楽々です。

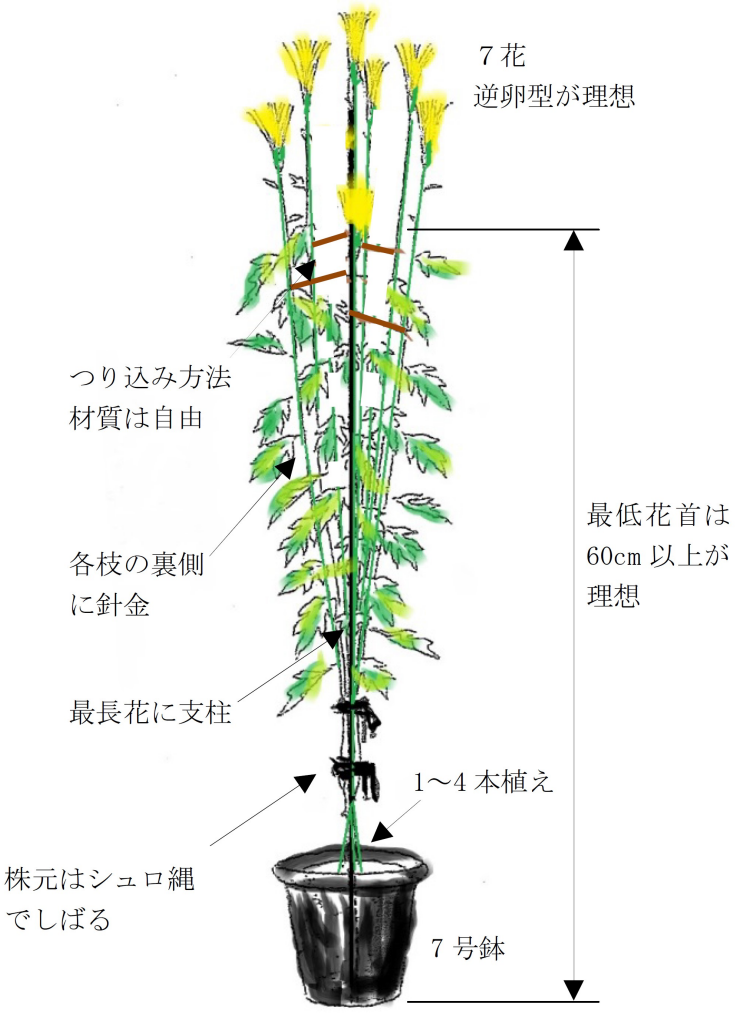
この方法で持ち込めば、花痛みはほとんどありません。移動のコツは、鉢をガムテープでしっかり固定すること。茎の中間部分にも針金で支柱を固定しダンボールにさしておけば、なお安定性が良いです。

嵯峨菊

関東では主流ではないので、仕立て方法はあいまいです。

私なりに解釈した理想的な仕立て方

- 一茎に一花とし、７花で仕立てる。
- 最長の花は、支柱を立てて中心に配置する。
- 最低の花は、手前の中心に配置し、７花は逆卵型に配置する。
- 長尺仕立てが一般的なので、最低花首は 60 ㎝以上あったほうが良い。
- 鉢とのバランスを考えると、140 ㎝以下が良さそうです。
- 針金は、茎の後ろに配置して正面から見えないようにする。
- 針金は、風にそよぐように短めに切る。
- 茎を固定するつり込み方法は、各自の自由とする。なくてもよい。
- 株元は、シュロ縄で縛り、男結びを理想とする。
- 株元付近の葉は、落としてもよい。



嵯峨菊の優雅さを出すため、葉を適当に間引くと良いです。

葉を間引く前

間引き後

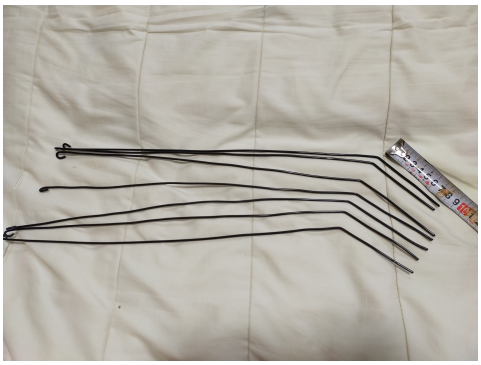
嵯峨菊　支柱の作成と仮誘引

嵯峨菊の支柱については、皆さん独自の方法がありますが、私のやり方をお教えします。

用意するものは、
　バインド線（黒ビニール針金）
　　太さ 1.8 ㎜（支柱用）
　　太さ 1.6 ㎜（支柱固定用）

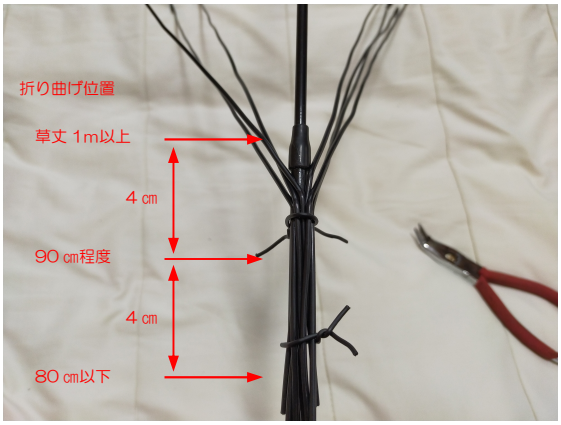
　ダルマ用支柱　１本

長さ 50 ㎝のバインド線 1.8 ㎜を、
７本用意します。
先端は刺さらないようにペンチで丸
めておきます。
下部８㎝の位置で折り曲げておきます。



ダルマ支柱の上部に７本をまとめて、
1.6 ㎜のバインド線で仮止めします。

仮止めする位置は、
嵯峨菊の草丈が１m以上あれば支柱の上部
90 ㎝程度なら４㎝下方向
80 ㎝以下なら８㎝下方向
とします。



仮止めで固定したら、1.6 ㎜のバインド線で
ぐるぐる巻きにして本固定します。

完成です。

最終的には１本切断し、各支柱の高さも
切り詰めますので、１シーズンの使い切
りとなります。